

## エゾスジヨトウ *Doerriessa striata* (Staudinger)

### 【選定理由】

生態は必ずしも正確に把握されていないが、貧栄養湿地から得られており、生息環境が限定され危機的状況にあると考えられる。

### 【形態】

開張 20~26mm。前翅は灰褐色に橙褐色を混じる。各横線を欠き、翅脈に沿う暗色の条線が目立つタテスジ型の斑紋のガである。後翅は淡い灰黄色~白色を呈する。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

岡崎市 (三浦, 1985; 松井, 1991)、瀬戸市 (間野, 1987)、豊田市 (田中ほか, 1991; 田中ほか, 2005; 間野・宮野, 2008)、日進市藤島町ほか (田中, 2015) で得られている。

#### 【国内の分布】

北海道、青森県、栃木県、岐阜県 (船越, 1983・1984、尾藤ほか, 1988)、三重県 (間野, 2004)、京都府などで散発的な記録がある。

#### 【世界の分布】

ロシア南東部に分布する。

### 【生息地の環境／生態的特性】

幼虫の食草など生態的に未知な部分が多い。採集記録などから、年2化、モウセンゴケを伴う傾斜地の貧栄養湿地が本種の生息環境と推測される。このような生息環境は、ヒメコミズメイガやシラユキコヤガの生息地に一致し、オオチャバネヨトウの生息環境よりも条件が厳しいと思われるが、現在のところ本種の方が生息確認場所は多い。成虫は6~8月に得られている。いずれの産地でも得られた個体数はわずかである。

### 【現在の生息状況／減少の要因】

今回の現地調査では、かつての生息地の多くが、土地改変などによって生息できない状況となっていた。生活史が未知なこともあり県内分布の動向は不明な点が多いが、生息地である湿地の減少が、もっとも危惧される。

### 【保全上の留意点】

平野部から丘陵に移行する地域の湿原は、都市の発展と共に非常に少なくなった。これからもさらに減少傾向にあると考えられる。何らかの保全対策が急務である。

### 【引用文献】

- 尾藤成人・遠藤弘志・笠井初志・藤原麒一朗, 1988. 岐阜県におけるエゾスジヨトウの記録について. 誘蛾燈, (111): 33.  
船越進太郎, 1983. 岐阜県産ヤガ 21 種の追加記録. 誘蛾燈, (83): 129-133.  
船越進太郎, 1984. 岐阜県美濃市休耕田の蛾類. 誘蛾燈, (97): 117-127.  
間野隆裕, 1987. エゾスジヨトウ愛知県で採集. 誘蛾燈, (110): 126.  
間野隆裕, 2004. 第5章 昆虫 第10節 チョウ目(ガ類). 上野市史 自然編: 723-747, 995-1030. 上野市.  
間野隆裕・宮野昭彦, 2008. カバフキシタバ・シラユキコヤガ・エゾスジヨトウの愛知県豊田市の記録. 誘蛾燈, (194): 105-107.  
松井直人, 1991. 岡崎市本宿町の蛾. 虫譜, 29 (2): 1-32.  
三浦重光, 1985. 岡崎市の蛾類. 新編岡崎市史 14 自然編: 853-972.  
田中 蕃ほか, 1991. 愛知県の蛾類. 愛知県の昆虫, (下): 96-416. 愛知県.  
田中 蕃・間野隆裕・蟹江 昇・高橋匡司・岩月 学・小林広成・有田玲子・山田真澄, 2005. 豊田市自然環境基礎調査報告書: 本編Ⅶ 昆虫類: 181-323. 資料編Ⅴ昆虫類: 105-385. 豊田市.  
田中多喜彦, 2015. 第8章 昆虫 第7節 チョウ目のガ類. 日進市史: 418-437. 日進市.

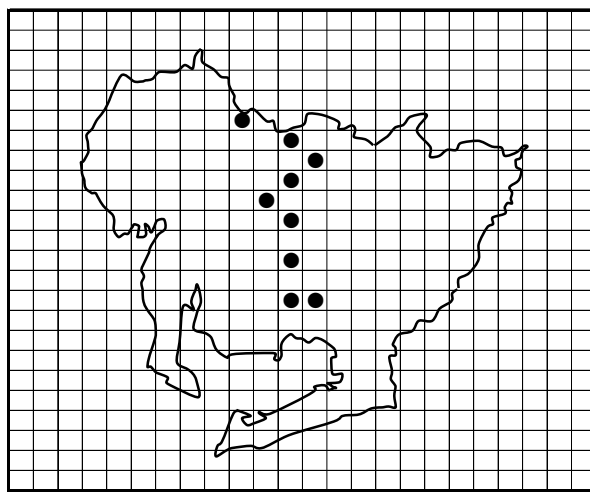
### 【関連文献】

- 岸田泰典ほか, 2011. 日本産蛾類標準図鑑. Ⅱ. 学習研究社.  
工藤広悦, 1985. 沼沢地の蛾. 月刊むし, (174): 8-15.



豊田市下川口, 2008年6月10日, 間野隆裕 採集

県内分布図



(間野隆裕)